

議会トピックス

茨城県市議会議長会 令和6年度第1回議員研修会

期日：11月18日～19日 場所：鹿島セントラルホテル

11月18日

■演題 「鹿島アントラーズが考える地域の未来像」

■講師 小泉 文明 氏（株式会社メルカリ取締役会長兼
株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー代表取締役社長）

11月19日

■研修視察

視察先 ・霞ヶ浦 どうぶつとみんなのいえ
・らぽぽ
なめがたファーマーズヴィレッジ

今回の研修会は県東ブロックが担当となり、行方市議会議長が運営委員長として、県内の市議会議員や事務局職員約200名をお迎えし、2日間の研修会を開催しました。



行方市に視察に来訪されました

岐阜県大野町議会（12名）

●期 日 令和6年10月16日

●視察内容 ・廃校後の学校利活用について
・なめがたファーマーズヴィレッジ視察



千葉県鴨川市議会 建設経済常任委員会（7名）

●期 日 令和6年10月16日

●視察内容 ・「行方市地域ブランディング推進計画
2023-2027」に基づく6次産業化の
推進等について
・なめがたファーマーズヴィレッジ視察



沖縄県伊江村議会 経済・公営企業常任委員会（8名）

●期 日 令和6年10月17日

●視察内容 ・行方市地域ブランディング推進計画の
取組みについて
・農家に対する支援策について



今後ますますのご発展をご祈念いたします

教育厚生委員会

期日：10月3日～4日

委員長：高橋 正信

■校内フリースクールについて（茨城県下妻市）

茨城県下妻市の「校内フリースクールについて」は、下妻市では、学びを人生や社会に生かそうとする人材の育成に向け、「指導から教育へ 指導から支援へ 指導から経営へ」をテーマに掲げ、「個を大切にする教育」「市全体での教育力の向上」を目指しています。

下妻市の、不登校は「誰にでも起こりうるもの」、不登校支援がめざすものは「児童生徒の社会的自立」、大切にすることは「学びの保障」「一人一人に合った支援を」という考えは、本市においても大変共感できるものでありました。

今後、本市におきましても、下妻市の先進的な取組を参考に、不安を抱える家庭と、よりよい学びを進めたい学校と共に、児童生徒に寄り添いながら教育行政の取組を支援していきたいと考えます。



■ヤングケアラーについて（埼玉県上尾市）

埼玉県上尾市では、令和5年7月1日、「上尾市子ども・若者ケアラー支援の推進に関する条例」を全国初で施行。その理念である「全ての子ども・若者ケアラーが個人として尊重され、孤立することのないよう社会全体で支えること」、「ヤングケアラーに対する支援は、適切な教育の機会が確保され、心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られること」、「若者ケアラーに対する支援は、活躍できる機会が確保され、その自立が図られること」は、上尾市同様に、本市においても取り組んでいくべきものではないかと実感しました。

本市においても、まずはヤングケアラーと思われる子ども・若者の存在について認識し、必要な支援が停滞なく進められるような取組を考えていかなければならないと考えます。



経済建設委員会

期日：10月17日～18日

委員長：小野瀬 忠利

■産業復興実現への取組について（福島県楡葉町）

福島県楡葉町では、震災及び原子力事故により途絶えてしまった農業の再生、営農再開に向けた取組を進めており、福島県浜通りをけん引する新たな農業モデルとして平成29年度から甘藷栽培を始め、一大産地化を目指して面積拡大が進んでいます。

その中で、日本最大級の甘藷貯蔵施設「楡葉町 甘藷貯蔵施設（愛称：楡葉おいも熟成蔵）」、甘藷を始めとした加工施設「楡葉町 特産品開発センター」、株式会社福島しろはとファームの「ソーラー育苗ハウス」がそれぞれ完成し、甘藷の栽培から加工・販売までの流れが整備されました。

一般社団法人ならはみらいでは、町民や町内事業者の暮らしの再生と新たな居住を促進するため、新しい生活の拠点として、商業施設「ここなら笑店街」や交流館「ならは CANvas」、住宅や医療施設等を集積した「笑ふるタウンならは」が整備されました。事業ごとに方針を定め、各種事業を展開しており、設立趣旨に沿って、さらなる「ならは」の“みらい”づくりへ貢献し、楡葉町のにぎわいを創出しているということです。

楡葉町の取組のように、本市においても、市民と共に一丸となって、まちづくりを進めていかなければならないことを実感しました。



■霞ヶ浦導水事業の取組について（国土交通省関東地方整備局

霞ヶ浦導水工事事務所）

霞ヶ浦導水事業は、那珂川下流部、霞ヶ浦及び利根川下流部を連結する地下トンネルによる 流況調整河川を建設し、河川湖沼の水質浄化、既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持と増進、水道及び工業用水の供給の確保を目的とした事業です。

その目的としては、①水質浄化、②流水の正常な機能の維持と増進（水不足の軽減）、③水道及び工業用水の供給の確保が挙げられます。限られた水資源を有効に活用するため、那珂川・霞ヶ浦・利根川を結び、那珂川水系も合わせた水のネットワークを形成するものが霞ヶ浦導水路といわれるものです。実際に那珂機場及び玉里立坑を見学させていただき、本市においても、昔のような美しい水辺環境を取り戻すためにも必要な事業であることを確信しました。

今後、なお一層安全に留意して工事を進めていただきながら、一刻も早い開通を望みます。



議会運営委員会

期日：11月7日～8日

委員長：岡田 晴雄

■議会改革の取り組みについて（北海道苫小牧市）

苫小牧市議会は、議会改革の取り組みとして、平成23年5月から議長を座長とし、副議長と各会派の代表者及び無所属議員で構成する「議会改革検討会」を発足させました。非公式ではありますが、この検討会では、現在7つの検討項目を掲げ、インターネットで公開しながら改革に取り組んでいます。その中でも最優先検討項目である「議会のICT化の推進について」は、平成28年3月から検討を始め、Wi-Fi設置とあわせ導入し、令和3年5月に操作研修会を実施、6月定例会から運用を開始しました。



このように、通信環境を整備することで、議会機能の強化及び議会情報の積極的な発信を行い、より一層の市民に開かれた議会にもつながるものになると実感しました。

■議会の機能強化と改革の取り組みについて（北海道札幌市）

札幌市議会では、議長が議会基本条例に基づき、議会の機能強化及び改革に継続的に取り組むため、議員で構成する検討組織の設置を要請し、検討組織である「議会機能強化・改革検討委員会」を立ち上げました。検討委員会の開催頻度は、月に1回から2回程度。検討事項の結論の出し方は、交渉会派の全会一致とし、検討事項は議長からの諮問事項のほか、各会派から提案事項を募り、その中から優先的に検討項目を決定していました。



成果の一つである「議会基本条例の制定（及び検証）」については、地方分権一括法が平成12年4月に施行となり、地方自治体の自主性・自立性が飛躍的に拡大し、地方議会の果たす役割も大幅に増大しました。「開かれた議会」の実現に向けた改革に取り組んでいた札幌市議会では、まずは、その制度の必要性から検討に入り、視察調査、議員が認識を深めるため全員参加の勉強会等を実施し、制定について基本合意に至り平成25年2月定例会で提案・可決となりました。

この基本条例の制定が可決されたことにより、開かれた議会と、さらなる機能強化及び改革につながったものと考えます。

■防災学習交流センター「そなえーる」について（北海道千歳市）

千歳市の防災学習交流センター「そなえーる」については、近年全国各地で頻発している地震や大雨などの自然災害を教訓に、千歳市総合防災訓練をはじめ、各種の訓練及び防災講座が幅広い年代において展開されていました。このような取り組みは、防災に対する意識の向上や災害から自分自身を守る自助や共助に大きく寄与するとともに、自主防災組織及び防災関係機関の意識づけにつながるものであると確信しました。

所管事務調査

総務委員会

期日：10月31日

委員長：土子 浩正

（1）霞ヶ浦ふれあいランド再生整備事業の運営状況について

執行部より、「霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ」の来場者数及び公益社団法人日本動物園水族館協会（JAZA）との協議の進捗状況、虹の塔・レンタサイクル・観光物産館こいこいの来場者数及び売上額について報告を受けました。

また、なめがた夏祭り（8月24日～25日開催）、ドッグフェス（10月19日～20日開催）についても、開催内容や来場者数等の報告を受けました。

現地においては、施設の管理状況などを確認しました。



令和6年12月5日から、キリン2頭の展示を開始（12月中旬撮影）

（2）行方市交流宿泊施設の運営状況について

執行部より、令和6年10月1日から運営が開始された交流宿泊施設（ムービングハウス）について、来場者数及び売上額、客室の利用状況等について報告を受けました。

現地においては、ムービングハウスの建物を確認後、委員からの意見・要望を運営会社へ伝えました。